

午後 1時00分 再開

○稲田議長 休憩前に引き続き会議を開き、市政一般に対する質問を続行いたします。

次に、岡田議員。

〔岡田議員質問席へ〕

○岡田議員 会派自由創政の岡田でございます。昨日の戸田議員による代表質問に関連いたしまして、大要4点について質問を行ってまいりたいと思います。

まず初めに、狹隘道路解消事業についてお伺いをしたいと思っておりますけれども、狹隘道路の解消に向けての今後の事業の進め方についてお伺いしたいと思っております。

○稲田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 狹隘道路解消に向けての今後の事業の進め方についてでございます。自治会や地域住民に対して、道路整備要望や狭あい道路拡幅整備事業などの制度の再周知を行う予定としておりまして、まずは地域のニーズ等の調査や聞き取りなどを行いながら、現状の把握に努めていきたいと存じます。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 それでは、狹隘道路の多い木造住宅密集地域というのが市内には結構ありますけれども、本市として狹隘道路の解消が必要な地域を把握しているのかを伺いたいと思っております。

○稲田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 狹隘道路の解消が必要な地域の把握についてのお尋ねでございます。市内には、木造住宅が比較的密集しています中心市街地をはじめ、狹隘道路が多数存在する地域がある

ことは認識はしておりますが、具体的に狹隘道路の解消が必要な地域や路線などの把握ができていないのが現状でございます。今後、地域のニーズを踏まえながら、狹隘道路の解消が必要な地域や路線の選定など、具体的な把握に努めていきたいと思っております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 そうしますと、高齢者や空き家の多い地区では、地域の声も聞きながらということだったんですけども、地元の要望の声がなかなか上がってこない、これ以前、議場でも言いましたけども、可能性があるというふうに思うんですけども、このような地区に対しての対応はどのように考えているのか伺いたいと思います。

○稲田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 高齢者や空き家の多い地区に対しての本市の対応についてでございます。まずは、道路整備要望や狭あい道路拡幅整備などの制度の再周知をしたいと考えておるところでございます。あわせて、他の施策と連携を取りながら、高齢者や空き家の多い地区も含めた狹隘道路の解消が必要な地区、路線の選定や現状の把握に努め、自治会などとの話合いの機会を設けてみるなど、狹隘道路の解消に向けて対応していきたいと存じます。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 このたびの能登半島の地震におきまして、こういった木造住宅密集地域、以前の耐震基準の木造住宅が密集している地域で狹隘道路が多いところ、火災等の延焼もあったりして大変被害を拡大したということがあったと思うんですけども、こ

これは、防災・減災の担当というのは今日は総務部長になるんですかね。どう思われますか、狹隘道路の解消について。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 先ほど都市整備部長のほうからお答えしましたとおり、そういった災害に比較的弱い地域というのは、議員がおっしゃるように存在をしておるといふところがございますので、そこについてもしっかりと状況の把握をしながら進捗を上げていきたいというふうを考えております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 そうしますと、これは中心市街地活性化についての質問を後ほどするんですけれども、中心市街地活性化にとってもこの狹隘道路の解消というのは私は重要じゃないかというふうを考えてるんですけれども、先ほど岩崎議員のほうも、あと門脇議員のほうも中心市街地や商店街についての質問をしておられましたけれども、これは経済部長としてはどうですか、中心市街地活性化ということに対して、狹隘道路の解消、これやっていくべきだというふうにお考えですか、いかがですか。

○稲田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 中心市街地活性化において、議員御指摘のとおり、米子市では、区画整理ができなかったエリアに関しては、狹隘道路があるため再建築が難しい場所があるということで、私も地元の方に御相談を受けまして、先ほど都市整備部長が説明しました制度について説明したこともございます。ですんで、中心市街地活性化において、狹隘道路が解消されれば新しい建物や商店が建てられるということで、寄与するものだと考えてます。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 それから、今日は立地適正化に対する質問もあったんですけれども、総合政策部から見ていかがですか。立地適正化計画、特に中心市街地に狭隘道路っていうのはある程度あるんですけれども、居住誘導区域ということになってるんだろうと思うんですけれども、今の現状で居住誘導がしやすい状況にあるのかなのか、この問題をどういった形で解消しようというふうに考えておられるのか、総合政策部のお考えをお聞きしたいと思います。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 答えといたしましては、先ほど両部長が答えをさせていただいたとおりでございます。中心市街地の活性化の面からも、今日、岩崎議員の質問にもお答えしましたが、様々な制度があるわけですが、その制度の活用をセットでやはり道路の問題というのにも考えていかなければならないというふうに思っているところでございます。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 そうしますと、この狭隘道路解消事業というのは都市整備部だけで考えて解消できるものではないというのは明らかだろうというふうに思うんですけれども、以前から部局横断的な問題に関しては全庁的に問題を共有して副市長のほうで解決策を探していくということなんですけれども、この狭隘道路解消事業について全庁的にどのような議論がされてるのかお伺いしたいと思います。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 道路について全庁的な話といたしましては、一応そういうものを設けてお話をさせていただいてるケースがあります。ただ、狹隘道路に限った全庁的な仕組みというのはまだございません。現在あるのは、例えば空き家ですとか、そういう部分については全庁的な検討はさせていただいてるんですけど、狹隘道路についてはまだそういう仕組みがございませんので、今後その必要性について改めて検討させていただきたいというふうに考えております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 この狹隘道路解消ということ、当初は防災・減災という側面が強かったというふうに私も思ってるんですけども、先ほどおっしゃった空き家の問題で、午前中の質問の中でも、啓成校区、空き家率が高いという数値を出しておられましたけれども、御存じのように、地域、地域によって啓成校区の中でもかなり狹隘道路がたくさんあって木造住宅が密集してる、これは空き家対策を例えばやっていく上でも、狹隘道路の解消ということに全く関わることなく空き家対策ができない地域というのがあると思うんですけども、そういう御認識を全庁的に話をしてない、先ほど部長は狹隘道路に限ったことはやってないということだったんですけども、例えば空き家対策についての問題だとか中心市街地活性化についての問題ということを議論していく中で、狹隘道路の解消ということが共通項としてこれやっていかないといけないんじゃないかという議論になっていくような気はするんですけども、これは部長じゃなくて副市長が答えるべきだと思いますよ。いかがですか。

○稲田議長 伊澤副市長。

○伊澤副市長 先ほど八幡部長のほうからもお答えしました様々な課題について、全庁的に部局横断で議論しております。具体的にこの路線という形で議論をしていないということでありまして、まさに中心市街地を中心に道路、それから先ほどおっしゃったような防災、もっと言えば防犯といったような観点で建物の老朽化も併せてみると、非常に課題があるというんでしょうか、問題があるエリアがあるということは、これはテーマとして話をしております。ただ、具体的に、じゃあ、どういう道路計画を考えるのかとか、どの路線から手をつけるのかというところまでの議論に至っていないというのは、先ほど部長のほうからお答えしたとおりであります。

いずれにしても、エリアごとにどういうふうなまちづくりを進めるのかということ、特に道路の整備ということになりますと単発でということにも多分ならないと思いますので、考えていく必要がある、非常に重要かつ正直申し上げて難しい問題でありますけども、避けては通れない問題だろうというふうに考えてます。以上です。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 以前この議場でも、市長も、やってはいきたいんだけど、大変ハードルの高い事業だということを申しておられましたけども、私も確かにハードルが非常に高いということは認識はするんですけども、これから米子のまちをさらに発展をさせていくためには、この狭隘道路の解消事業、先ほど申し上げました中心市街地活性化であるとか空き家対策の問題であるとか、

あとは商店街の活性化というようなことも含めまして、ここをどこかで大きくかじを切っていく必要性っていうのがあると思いますので、少なくとも、いろんな部署にまたがる問題でありますので、やはり全庁的に話し合っただけということではまずやっただけのように要望したいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 議員から要望いただきましたので、それにつきましては適切に取扱いをさせていただきたいと思います。

今いろいろ答弁の内容も含めてやり取りを聞いておりましたところですが、狭隘道路の解消という、そのものの一つのテーマでやるには壮大なこれは話になるなということが容易に想像つきます。これは私も市長という立場上、仕事柄といいましょうか、様々な狭隘道路を歩いてまいりましたので、もう本当にあちこちに狭隘道路のある地区っていうのはあります。特に例えば、ある地区における本村と呼ばれるような場所、江戸時代から続くような回廊といいましょうか、大八車が擦れ違う程度の道しかないような、それが今でも残ってるようなエリアとかっていうのは本当に狭い道路がたくさん残ってる。これは、もう米子市内あちらこちらにあるわけですので、一概に狭隘道路の解消だということでは進めていくには相当なハードルがあるだろうなというふうに思います。

ただ、一方で、何かテーマを決めて、例えば、先ほど若林経済部長が言いましたけれども、中心市街地の活性化だというようなテーマが仮にあったとして、そのための狭隘道路の解消だという

ことであれば、ある程度エリアを区切って、ここはやろうとか、何年度までにここまではやろうとか、そういうようなテーマができると思いますし、それからやはり火災とか防災の観点からも、全国的にも地震があったところだけでなく、数年前、新潟県のどこかのまちでもやっぱり密集地で火災が起きました。例えば料理屋さんとか火を恒常的に扱うようなお店のあるような場所の狭隘道路、これは住宅の密集街とセットなんですけれども、そういったところにおいて特に防災上必要だと思われる場所とか、そのやっぱりテーマを決めて、そして地域、地区もある程度絞りながら、徐々にといいましょうか、そういう進め方というのは、これは逆に言うところとありだろうなというふうに思いますので、じゃあ、どういうテーマを設定しながらこの狭隘道路の解消というものに進められるのか、また住民の合意の面でも必要になってきますので、その辺りがいただけるのかなどなど、研究をしていきたいというふうに思います。以上でございます。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 ぜひ、市長が言われたように、全部を一気にというわけには当然いきませんので、ある程度テーマを絞ってということになるんだろうと思うんですけれども、これはやっぱり手をつけなくていい当然問題ではないというふうに思っておりますので、先ほど言われた中心市街地活性化というような切り口でも結構だと思いますし、防災・減災でも、同じ狭隘道路であっても、例えば弓浜のほうなんかもありますけれども、塀と塀の間が道がすごく狭い。ただ、家屋そのものは庭が広いんで、家そのものはくっついてない。これ中心市街地になりますと、狭隘道路の上に家そ

のものがくっついてるといような地域もあって、こういったところはやっぱり火災にはかなり弱いんだろなという感じはしております。ですので、当局でテーマを絞っていただいて、ぜひともこの狭隘道路の解消ということに一步でも二歩でも踏み込んでいただいて進めていただくように要望しておきたいというふうに思います。

続きまして、働き方改革についてですけれども、これは、我が国は少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少、育児や介護との両立など、働く方のニーズの多様化などの状況に直面しています。こうした中、投資やイノベーションによる生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲、能力を存分に発揮できる環境をつくることが重要な課題になっています。働き方改革は、この課題の解決のため、働く方の置かれた個々の事情に応じ多様な働き方を選択できる社会を実現し、働く方一人一人がよりよい将来の展望を持てるようにすることを目指していますというふうに厚生労働省のほうに書いてあったんですけれども、ホームページですかね。

それで、働き方改革についてお伺いしていきたいと思いますがけれども、働き方改革の目的というのは、最終的には、職員がその働き方の改革を通じて働きやすい状況になったその先に、より質の高い行政サービスを市民に提供することができるということだというふうに僕は思ってるんですけれども、その取組成果についてお伺いをしたいと思います。

○**稲田議長** 下関総務部長。

○**下関総務部長** 働き方改革の成果ということでございますけれども、住民の福祉の増進を図ること、これが私たち公務員の本分

と目的でございます。職員が働きやすい職場環境を整えることで、職員一人一人が力を発揮いたしまして、組織のパフォーマンスが上がり、成果として質の高い行政サービスの提供につなげるよう努めているところでございます。窓口対応で市民の方から最近お褒めの言葉をいただくことですか、先般ありました給付金ですかコロナ対応などの国からの事業に対しても、オール米子市という形で協力し合いながらやり遂げたこと、職員の能力が発揮しやすい環境がこれらのことからつくられつつあるなどというふうに感じているところでございます。引き続きしっかりと市民サービスの向上に向けて取り組みたいというふうに考えております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 そうしますと、質の高い行政サービス提供に向けて、職員が公務の仕事の意義を認識して公務へのやりがいを感じられる職場環境が必要と考えておりますが、見解を伺いたいと思います。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 やりがいが感じられる職場環境が必要だというお話でございますけれども、住民福祉の増進を図るという公務の目的を職員として当然認識していかなければならないものでございますが、職員研修のほか、日常の業務における上司からの指導ですとか人事評価の際の面談などを通じまして、公務の目的や重要性について改めて認識するような機会を増やし、公務へのやりがいを感じられ、モチベーションの保持につながるような職場環境にしなければならないというふうに考えております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員　そうしますと、市職員の中に、例えばやる気の出ない職員さん、あんまり力を発揮できていない職員さんが中にはおられるんだろうというふうに思うんですけど、働き方改革というのをやっていく大前提として、要はやる気が出てない職員にやる気を出さすとか、そういったことをどのように対応してるのか伺いたいと思います。

○稲田議長　下関総務部長。

○下関総務部長　十分能力が発揮できていない、モチベーションが上がっていない職員への対応ということでございますけれども、日々の業務指導の中で随時上司から指導を行っているところでございますが、場合によっては、本人に対して、健康状態や家庭状況など業務以外の理由で能力が発揮できていない状況がないか、聞き取りを行いながら指導を行っているところでございます。

また、人事評価の面談などを通じて、担っている業務や役職に求められる役割について、上司が本人に対して気づきを与え、職員の能力を引き出せるよう職場での人事育成に努めているところでございます。

○稲田議長　岡田議員。

○岡田議員　あと、行政サービスの向上のために、職員の業績に応じて人事を行い、人事評価結果を職員の給与に反映させるなど、働き方改革をする大前提として、そういうやる気のある人にはやる気を出していただくということに当然なるんだろうと思うんですけど、やる気のある職員の力をさらに引き出すような仕組みというのが必要だというふうに考えるんですけども、いかがお考えでしょうか。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 やる気のある職員のさらに能力を引き出す仕組みということでございますけれども、人事につきましては、人事評価や本人の資質、経験年数などを総合的に判断して行っております、それぞれの職責が担えるような適切な人事に努めているところでございます。

また、処遇につきましては、業績や能力などを含めた人事評価の結果を給与に反映することで職員のモチベーションアップにつなげたいというふうに考えております。引き続き、職員個人のパフォーマンスと組織力の向上に向けて取り組んでいきたいと考えております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 この働き方改革について、これで長時間労働の是正であるとか多様で柔軟な働き方の実現、それから雇用形態に関わらない公正な待遇の確保ということで、同一労働同一賃金ということなんだろうと思うんですけど、これ何となく長時間労働をとにかくしなくて、ワーク・ライフ・バランスとかっていうようなことも踏まえて働き方改革というのと、あんまり働かないほうがいいのかというような雰囲気もあるんですけど、ただ、当然ですけど、多様で柔軟な働き方の実現ということで、例えば子育てをしておられる方が子どもさんが病気になったときに、すぐ休みが取れたりとかいうようなことは当然やっていかないといけないと思いますし、介護の関係で急遽休みを取らなくてはいけなくなったときに、やっぱり休みが取りやすいというような職場環境、これをつくっていくべきだろうと思います。

ただ、私の周りにもいるんですけど、がんがん働きたいという人がいるんですよ。要は長時間であろうと何であろうと、法律的にある程度労働時間っていうのは制約があるんですけど、要はがんがん働きたいという人がいたときに、当然多様な働き方の実現ということですから、そういう人に対しても対応していくんだらうと思うんですけど、そのどんどんどんどんもっと働きたいという人、そういう人に対する対応っていうのはどういう、そのまま頑張れというようなことぐらいなんですかね。いかがでしょうか。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 さらに頑張りたいという職員に対してでございますけど、市役所の仕事といいますのは非常に広範囲の部分でございます。もちろんその場でその職員がもっとやりたい、こんなことにもチャレンジしてみたいというようなことは、当然その個人がしっかりと考えている部分だらうとは思いますが、またそれがその場の職務と必ずしも一致してない、そういう場合は当然あろうかと思えます。地味ですけれども、しっかりと役割を果たすような職場もあれば、外に向けてある程度成果をしっかりと出していくというような様々な職場がございますので、職員個人のそういった思いというものも内申というような形で聞き取りをしたりもしておりますので、そういったところで把握をしながら、ふさわしい職、適材適所というようなことになろうかとは思いますが、そういった形でそれを反映させていくということも場合によってはあるのではないかというふうに考えております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 要は、この働き方改革ということで、様々な、テレワークなんかもそういったものの流れの一環なんだろうというふうに思うんですけれども、どうしても先ほど申し上げたように、例えば子どもさんが急に病気になって帰らないといけない、でも現場における仕事量が減るわけじゃなくて、仕事をこさないといけない仕事量が減らない中でそういう状況になっていったときには、当然ですけれど、組織の中で、例えばそれが係なのか、課なのか、その中でやはりきちっと対応していかないと、この働き方改革ということができないんだろうというふうに思うんですよね。

ですんで、個々の働き方改革ということだけじゃなくて、組織として、この働き方改革をやっていくために、例えば課なり室なり係なりとして、要は仕事って個人戦じゃなくてやっぱり団体戦ですから、その団体としての、かなり働き方改革をみんなですべていくために注意してる点があるんであれば、あるんでしょうけども、教えていただければと思います。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 組織としてしっかりとパフォーマンスを上げていく、これは議員さんがおっしゃられるとおりでというふうに考えております。ただ、その土台となるのは、個々人のそれぞれの能力であったりというものがベースになるものだと思っておりますので、基本的には、個人のそれぞれの職務能力ですとか、そういったものをしっかりと底上げしていく、こういった形でもって最終的には組織としてのパフォーマンスも上げていく、こういったことが必要なんではないかというふうに考えております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員　ぜひいろんな形で、DXの推進なんかもこういった働き方改革を後押しすることになっていくんだろうと思うんですけど、そうは言っても個々人によって解決できる問題もあれば、組織的にきちっと対応しなければできない、先ほど言った雇用形態に関わらない公正な待遇の確保なんていうのは同一労働同一賃金の問題ですから、これはもう個々人の問題じゃなくて、組織としてどういうふうに対応していくかということになっていくんだろうと思いますんで、テレワークなんかの導入もコロナということを通じて導入もされ、かなり浸透もしてきたと思いますんで、様々な知見を使いながら、それぞれが、ワーク・ライフ・バランスなどという言い方もしますけども、働きやすい職場でより高いパフォーマンスを出して仕事としての充実感を味わうということにぜひ頑張っていたいただきたいというふうに思います。

私、以前どこかでも言ったんですけど、要は、働き方改革だとかワーク・ライフ・バランスという言い方をするんですけど、例えばアフリカの国だとか、アジアでもまだ貧しい国っていうのはこういうことを言えないんですよ。ですから、これは先人の我々のおじいさんなりおばあさんとか、そういった方々の努力によってこういうことを選択ができるようになったということだろうと僕は思ってます。アフリカの貧しい国の中で、こういうことは多分できませんよ。我々ができるのは、戦後の苦労の中、要は我々のおじいさん、おばあさんが自己犠牲の中で頑張ってきた、その礎の上に我々が今いるということ、この感謝をやはり持たないとこういったことはできないと思ってるんです。それは、これをやるのがぜいたくだとか、こういうことをしちゃいけない

いとかっていうことを言ってるわけじゃないんですよ。そうじゃなくて、そういう先人の努力があって、我々が働き方改革だとかワーク・ライフ・バランスができるということ、それはやはりきちっと認識をすべきだということを申し上げて、次の質問に移りたいと思います。

次は、米子市中小企業振興条例についてお伺いをしたいと思います。

まずは、条例制定後の市の具体的な取組状況についてお伺いをしたいと思います。

○稲田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 具体的な取組状況についてのお尋ねでございます。条例に基づきます重要課題に係る主な取組といたしましては、企業の生産性向上につながる取組を支援するため、省人化による小規模事業者等チャレンジアップ事業を実施し、企業の省人化や省力化に向けた機器やソフトウェアなどの導入を支援したところでございます。また、地産外商の推進に係る取組として、地産外商地域産品開発等事業により地域産品の新たな開発、改良など競争力を高める取組を支援したほか、ふるさと納税においては、新たな返礼品の造成に取り組み、昨年度に続きまして寄附額の増額につなげることができました。引き続き中小企業者などの状況把握に努めまして、必要な施策を総合的かつ計画的に講じていきたいと考えております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 そうしますと、市の事業者支援の取組についてお伺いをしましたけれども、次に、市が調達する工事や物品、役務な

どを市内業者に発注することも条例の目的に沿った支援と考えられますが、現在の調達における取組についても併せてお伺いしたいと思います。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 公共調達における取組についてでございますけれども、本市の公共調達につきましては、中小企業振興条例第5条第3項に基づきまして、地元事業者に優先的に発注をしているところでございます。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 そうしますと、条例制定後の市が実施した事業の成果についてお伺いをしたいと思います。

○稲田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 制定後の成果についてでございます。本条例が制定された令和2年3月以降は、新型コロナウイルスの感染拡大により厳しい状況でありましたが、そのような厳しい状況の中でも、市としては、経営の継続支援や消費喚起など新型コロナウイルス対策に重点を置きつつも、例えば住んで楽しいまちづくりファンドを設立し、中心市街地や皆生温泉エリアに新たなにぎわいの拠点となる店舗の出店を支援するなど、未来につながる新たな事業を実施してきたところでございます。条例制定により商工団体や金融機関などとの関係機関との役割が具体的に明記されまして、施策を検討、実施する際に、それらの関係機関とより円滑な連携を図ることができたと考えており、引き続き中小企業者などの状況把握に努めながら、中小企業者などの振興につながる取組を推進していきたいと考えております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 次に、公共調達において、市内に本店がある事業者の受注状況についてお伺いをしたいと思います。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 市内本店事業者の受注状況ということでございますけれども、令和4年度の受注実績におきまして、市内に本店がある事業者に入札により受注していただいた割合は、件数ベースで工事については約92%、物品については約54%、役務については約63%が市内に本店のある事業者に発注をさせていただいております。

また、受注金額ベースでは、工事については約94%、物品については約84%、役務については約61%の金額を発注させていただいているところでございます。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 一定の取組をしていただいているなというふうに思っております。米子市中小企業振興条例、第1条、目的のところにも、「この条例は、中小企業者・小規模企業者が本市経済において果たす役割の重要性に鑑み、中小企業者・小規模企業者の振興に関する取組の基本となる事項について定め、もって本市経済の活性化及び市民生活の向上に寄与することを目的とする」とありますので、ぜひ、米子ファースト、私、別に宗旨替えをしたわけじゃないですけど、都民ファーストじゃなくて米子ファーストで、決して米子オンリーではないんですよ、米子オンリーではなくて、米子ファーストということで地元の企業の皆さんを振興していくということをやっぱり行政のほうを意識してやらないと、

特に経済って、以前もお話しさせてもらったと思うんですけど、スケールメリットって大きくて、やはり大きなものが小さなものを駆逐していくというのはいろんな業界で見られることなんだろうと思うんですね。ですんで、普通に競争しますと、やっぱり大きなところが小さなところに勝つというのが経済の中では大きな流れなんだろうというふうに思うんですね。

それで、かといって、地元の事業者の方を過保護にというか、必要以上に守っていかなければならないというふうにまでは思っていないんですけど、その辺り、我々米子市ですから、米子市の当然米子市民の皆さんのために、そして米子の会社のためにということのを改めてやっぱりきちっと考えていきませんか、例えば競争入札においても、そういう大手だろうと地元の会社も関係なくてとにかく競争でやってくださいとなっていたときに、そりゃ中には全然勝てないものっていうのもあるんだろうと思うんです。地元の事業者もそれでよしとはしてなくて、例えば大企業のノウハウだとか、そういうものを個々にやっぱり学ぼうとしておられる企業さんたくさんありますんで、この中小企業振興条例という条例も制定もしておりますんで、地元の企業をきちっと守って振興を促していくということのをぜひやっていただくように、今の時点でもやっておられるんですけども、やっていただくように考えていただきたいというふうに思ってこの質問をさせていただきました。伊木市長のときに制定したわけですけども、伊木市長も大きくこれに関わっていただいたというふうに思ってるんですけども、伊木市長のほうからこれに対する見解があればお伺いをしたいというふうに思います。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 この中小企業振興条例、地元の経済団体からも要望いただきまして、我々として作成に動いたというところが経過としてございます。つくりまして、るる御質問いただいたんですけども、ある意味、一番聞いているのは、地元の中小企業者等をやはりしっかりと育てていただくために優先調達を考えたりとか、入札案件につきましても、いたずらに地元ばかりを優遇するわけじゃ決してありませんけれども、一定の条件をつけながら適切な競争条件が整っている状況の中で、地元の業者に一定のアドバンテージを与えるような、ポイント的なものを与えるようなやり方をしております。

そのことによりまして、やはり岡田議員が指摘されましたとおり、県外資本の非常に大手の大きなところから地元の中小企業の資本を守っていくという効果は一定程度あるんだろうなというふうに思っております。ただ、それで終わるのではなくて、やはりさらにこの条例を生かしていくためには、そして何とか基盤をつくった企業がさらなる上の高みに上がっていただきたいというふうに思っております。例えば地産外商によりまして県外のマーケットにも入っていけるような、そういった力をつけていただきたいと思って様々な施策を重ねているところでございます。まだその辺り道半ばではございますけれども、この条例の理念に従いまして地元の中小企業が振興するようにこれからも努力をしていきたいと思っております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 ぜひとも、言われたように、過度に地元の企業だけ

ということではできないわけですが、一定程度の配慮というのをしないと、市場主義原理に任せれば、やはり駆逐されていくところというのは小さな企業というのは多いんだろうというふうに思うんですね。ですので、そういったところ、何とか地元の企業さんに頑張ってもらって、もっと言うと大企業と戦っても勝てるような、そういう企業になっていただけるように本市としても取り組んでいただくように要望をしておきたいと思います。

最後に、先ほども狹隘道路解消事業の段で触れましたけれども、中心市街地活性化についてお伺いをしたいと思います。

代表質問においても、中心市街地活性化について市が今後予定している主な事業を伺ったんですが、令和3年3月に中心市街地活性化基本計画の計画期間が終了したんですけれども、改めて中心市街地活性化基本計画をやってみて、どのように総括を行ったのかをお伺いしたいと思います。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 中心市街地活性化基本計画の総括、3年前の総括でございますけれども、それにつきましては、これまでの取組によりまして、中心市街地のにぎわいの兆しは見られるものの、市としての投資が継続しなかったことや、各事業と来街者を誘導する施策、具体的に言えば交通施策等でございますが、一体化できていなかったことなどの理由により、中心市街地の再活性化は十分なものとは言えず、より一層の活性化及び全市的な波及効果が必要であると、要は不十分であったという総括でございます。

その総括の上で、今後は、これ3年前の総括でございますから、米子駅南北自由通路等整備事業ですとか米子城跡整備事業、中

海・錦海かわまちづくり計画などに取り組むとともに、米子駅周辺をはじめとする中心市街地を、最近よく申し上げております車中心から歩行者中心の魅力ある場へと再生し、多くの市民や来街者が集い、交流し、住まい、回遊する都市としての顔として再構築を図っていくと、そういうふうに総括をしていたところでございます。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 総括をしていただいて、ただ、ここにあるように、米子駅、がいなロードも整備ができました。それから米子城跡整備事業もかなりの進捗で進んでいます。このがいなロードの整備についていうと、大変身近な話であれなんですけど、私の友人も、駅が新しくなったということで、駅前のほうで店をやりたいということで今、改装工事をやっています。そういった話を、直接聞きましたんでやるんですけれども、間接的にでもちらほら聞きます。

あと、端的に大きいなと思ったのは、駅前の今のマンションの建設ですね。これは聞くとところによると、米子の駅が新しくなるということで、あそこ、もともと旧郵政省ですか、入札があってマンション業者の方が買われたんですけど、やっぱり米子駅が新しくなれば、がいなロードができるというのが大きな理由の一つだったというふうに聞いてますんで、これは、当然ですけれど、効果だったんだろうというふうに思っています。ただ、そうは言っても、先ほどおっしゃったように、その兆しは見られるものの、自立的に民間の投資がどんどん起こってるという状況にまではまだ至ってないというのが現状だろうというふうに思います。

それで、あと現在の取組を生かしてさらなるにぎわいにつなげ

るためには、立地適正化計画に掲げるコンパクトなまちづくりを推進するためにも、先ほどから申し上げてますように、狭隘道路の解消により新たな宅地開発を促したり、マンションが建設される再開発を呼び込むような施策、狭隘道路の解消ということもそうなんだろうと思うんですけども、必要だと考えてるんですけども、本市の見解を伺いたいと思います。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 申し上げたいのは、まだまだ始まったばかりだということで、もう本当に本番はこれからだというふうに思っております。それで、この再開発等を促す施策につきましては、現在、歩いてたのしいまちづくりの取組といたしまして、ウォークアブル推進事業などにより、まず中心市街地の環境の整備をしておるところでございまして、これによって新たな民間投資につながるというのを期待しているところでございます。

また、新商都米子のまちづくりにあります優良建築物等の整備事業については、これはマンション建設等の支援策の一つであり、令和3年7月から募集を開始しているところでございますが、まだ現時点ではちょっと相談等はございません。様々な再開発等につきましては、民間の事業者の皆さんから具体的な相談があった際には、やっぱり中心市街地の活性化を促進するために個別にいろいろな相談を受けていきたいと思っておりますし、また例えば皆さん方から、こういう施策をやったらどうかというような御提案がありましたら、それについても積極的に検討してまいりたいと、そういうふうに考えております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員　それで、あと、市はこれまで、先ほど門脇議員のほうからも質問がありましたけども、商店街、空き店舗への出店の支援というのを行ってきたんですけども、現在までの状況をどのように認識しているのか伺いたいと思います。

○稲田議長　若林経済部長。

○若林経済部長　商店街の空き店舗への出店などへの支援策の状況についてのお尋ねでございます。これまでに実施してきた商店街の空き店舗への出店支援対策によりまして、商店街の空き店舗の減少やにぎわい創出に一定の効果があったものとは考えておりますが、出店された店舗の中には、出店後、数年で閉店されるケースもあったと認識しております。現在は、よなご住んで楽しいまちづくりファンドにより空き店舗等の利活用による継続性のある取組を官民連携で支援しながら、商店街エリアの活性化に取り組んでいるところでございます。

○稲田議長　岡田議員。

○岡田議員　あと、市は様々な商店街支援策を行ってきたわけですけども、そもそも商店街周辺の人口が減少してるという状況下では、なかなかその効果というのが見えづらかった。やはり施策としてもいろんなことをやってるんですけども、以前、市長もこの議場で言われたと思うんですけど、山陰でも一番長いと言われた商店街、かつてのようになることを求めているわけじゃないと。私も、昭和の時代にあった昭和の時代の商店街のにぎわいを、そのままこの令和の時代にも求めるということではないと思っております。やはり商店が軒を連ねてるというあの町並みは、当然ほかの米子の地域の中ではない地域ですので、これは当然生かしてい

くべきなんだろうと思うんですけど、この商店街も令和に見合った商店街の形態というものがやっぱりあるんだろうというふうに思っています。そういう私は考えを持ってるんですけども、本市としての商店街の活性化策というものの今後の方向性について伺いたいと思います。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 今後の方向性というところでお話をいただきました。さっき午前中、岩崎議員から御質問をいただきましたいわゆる新商都米子の話でございますけれども、これはまさにそのことを表した言葉でございますして、米子はかつてから商都米子というふうに呼ばれてきましたが、その象徴する風景といいましょうか、象徴する場所というのは、まさに商店街、本通り商店街であったり、元町商店街であったり、あの辺りのエリアのことを指して商都というふうに呼ばれてきたわけでございますけれども、今のこの時代になりまして元のように戻すような形での復活というものは、これはなかなか難しいだろうと、至難の業であろうと。むしろやっぱり新しい時代における商都の姿は何なのかというのを職員たちで考えて、新商都という言葉をつくり出し、そしてその中に行うべき事業をいろいろと織り込んで施策としてこれを一つ一つ着実に進めている、これが今の米子市の進む方向を示したものなわけですけれども、そこに記載してありますように、やはりスポット、スポットでできることをとにかく積み重ねていきながら、面として中心市街地なり町なかというものを新しくしていこうというのが我々の考えでございます。

商店街におきましては、既にもう御商売をやめていらっしゃる

ような店舗といいましょうか、住宅もございますので、そこを無理やりここをもう一度店舗に戻そうということではなく、まだまだやるぞと、これからさらにやるぞといった意気込みのある商店主の方、あるいは県外から引っ越してこられて新たに始められた方など、そういった方々を着実に我々として接点を持ちながら可能な支援をしていくということを積み重ねていきたいと思っております。

それに伴って、議員御指摘のとおり、狭隘道路ですとか空き家の多いところですか、そういったところで何かまとまった事業が走りそうだとということがあれば、これは例えば国土交通省さんだとか、あるいは協定を結んでおりますURさんだとか、そういったところからのお知恵とか、あるいは財源とか、そういったものもお借りしながらできることを考えていく、これが今後の一つのやり方ではないかというふうに思っております。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 私も、以前はかつてのようになぎわいのある、かつてのなぎわいを取り戻すというような感覚でいたんですけども、時代背景が大きく変わって、もっと言うと、旧市内にしか商店がなかった時代と郊外にこれだけ大型店舗ができたときに、やっぱり個人個人の消費行動というのは、結果的に旧市内じゃなくて郊外の大きな店を選んだのは市民の皆さんであり県民の皆さんでありますので、これをそうじゃないんだと言うことはできませんので、改めて、市民の皆さんなり県民の皆さん、もっと言えば国外の方からも来てみたいと思っただけのまちづくりというのを、なかなかその答えというのはこれだというのをを見つけるのは難し

いのかもしれませんけども、僕は、一つは、居住人口をあそこでやっぱり増やしていくということをしないと、商店が来るという可能性も少ないんじゃないかと思ってるんですね。

日吉津にあるようなイオンであれば、商圈というのは例えば100キロとか、かなり広範囲の人口をお客として見ることができますけども、一般的な商店街にあるようなお店であれば、そこまで広い範囲からのお客さんを計算してやるということはないと思うんで、そうすると、そばに住んでる方の人口というのを増やさないと商店が出てくれるという可能性が低いんじゃないかというふうに思ってますんで、それもあって狭隘道路の解消ということもやっぱり一つ大きな要素になってくるんだらうというふうに思ってます。

これは、やっぱり民間事業者の方、要は不動産会社の方とか開発業者の方が、市長も言われたように、やっぱり中心市街地の例えば狭隘道路があるところだとか木造住宅が密集してる地域っていうのは開発としてのハードルが高いんですね。そうすると、どうしてもハードルの低い郊外のほうでやっぱり御商売されるっていうのは、ある面では当然のことです。ですので、中心市街地の商売のハードルを下げっていくということを本市のほうで踏み込んでやっていただく。そうすると、僕は自立的な民間投資が継続的に生まれる、そういうふうに考えておりますんで、米子駅、がいなロードも完成して私は様々な動きが出てきたと思ってますし、これからさらにその動きを拡大できるんだらうというふうに思ってますんで。

ひいては、以前市長もお話をしておられましたけども、土地の

値段が上がれば固定資産税は上がっていきます。建物が建っただけじゃなくて、いろんな投資が行われることによって土地の魅力が増せば、今、いろんな商品の物価、それから株価も上がってます。僕は、人口が減少するんで土地の値段が下がるという方も多いんですけど、土地の値段もある程度上がっていくんじゃないかなというふうに思ってます。土地の値段が上がってくると、民間投資というのはやりやすくなります。土地の値段が下がっていく中で民間投資をやっていくっていうのは、かなり厳しいんですね。ですんで、なるべく早く売れるところでないとか開発できないとかいうのは、土地の値段が下がるというのは結構あると思うんです。それが昭和の時代のように土地の値段が上がるということになれば、ある程度売れなくても、持っても銀行の金利よりも土地の値段が上がればいいわけですから、そうなってくると、開発っていうのは進んでいくんだろうというふうに思ってます。今回の米子駅のがいなロードの開通ということも一つの本当に大きな契機だと思ってますんで、ぜひこの中心市街地の活性化もこのタイミングで押し進めていただきたいというふうに思っているんです。

それで、もう一つ、角盤町のほうのJ U米子高島屋、あの近辺はアーケードもきれいにされて、かなりというか、ウォークブルの投資もやっていますんで、非常に商店街の中でも特に注力してる、民間投資も含めてなってると思うんですけども、これをさらに伸ばして行っていただけるように僕もぜひやって行っていただきたいと思うんですけど、ここに対するさらなる角盤町近辺の投資というのが具体的に、いろいろと今言っておられると思うんですけども、あればお話を聞きたいと思えますけど、いかがですか。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 さらなる投資のお話でございますけども、現在、御承知のように、米子駅周辺、角盤町周辺、そして米子港周辺で都市再生整備事業というのを展開しております、そこでウォークブルなどの取組を進めているところでございます。この今が大体の5年間の中間年ぐらいでして、それがあと二、三年したら一応完成しますが、私の答弁でもお答えしましたけども、この後、では、どうするんだというところで、例えば米子港周辺とかどうするんだとか、当然米子港周辺だけじゃなくて、米子駅の課題もいろいろありますし、現在その辺りの課題について、まだこの事業は終わってませんが、次を見越したそういう検討をするようにという指示は受けておりますので、その内容について今日この場で皆さん方にお示しできるという段階ではございませんけども、既にそういう検討に着手はさせていただいているということだけは申し上げたいと思います。

○稲田議長 若林経済部長。

○若林経済部長 経済部としては、投資ではございませんが、取り組んでることをちょっとお話しさせていただきたいと思います。先日の答弁でも、企業誘致に関しまして、駅周辺の空きビルを調査して、そちらのほうに具体的に入居していただいたということがございます。角盤町のほうにつきましても、今空いてる大きいビル、3つぐらい空いてるスペースとか掌握しまして何社か御紹介したりしております。具体的に実ったものもございますし、実らないものもあるわけですが、やはり角盤町の取組があつてから、そこら辺りのビルに関しまして、中海テレビさんが入られた以降、

その隣接のビルに複数社入っていただいているということに關しまして、我々としても一生懸命取り組んでいるところでございます。

○稲田議長 岡田議員。

○岡田議員 いろんな形でこの中心市街地活性化に取り組んでいただいております、成果も見えつつありますし、さらに、民間投資も、米原ではメガドンキですか、来られるということもあります。ですんで、天満屋さんも含めまして、天満屋さん、それからドン・キホーテさん、J U 米子高島屋さん、駅前には米子市所有の駅前イオンもありますんで、こういった、郊外がどうのこうのということじゃなくて、とにかくコンパクト・プラス・ネットワークということによっておられますんで、郊外のほうがかなり元気がある今の現状がありますんで、何としてもこの中心市街地を活性化させることが郊外の発展にもつながるといような循環になるようにですね。なかなか行政だけで大きく事業を引っ張るということは難しいのかもしれませんが、民間の方等の協力を得ながら、伊木市長も今7年経過されて残り任期としては1年ということでありまして、ぜひとも伊木市長が描いてこられた公約を一つでも実現をしていただくように、この最後の1年、さらなる精進を要望させていただいて、私の質問を終えたいと思います。